街に残る江戸の終焉跡
東京 幕末歩き
～六本木から品川はたまた永田町などなど～
高杉晋作、伊藤博文ら長州藩士

㊐の⑤

取材・文・構成◎三澤敏博（絡繰堂）

TOKYO BAKUMATSU WALKING

高杉晋作、桂小五郎、伊藤博文……
維新を過激に導いた長州藩士達。
幕末の英雄から政治家へと
変貌していった
彼らの残した足跡を追う

混沌の幕末を過激に指揮した長州藩の英雄達

前号で吉田松陰を紹介したが、今回はその松陰に教えられた長州藩士達の歩いた江戸東京を辿ってみる。まず桜田門からすぐの「日比谷公園（1）」。実はここに長州藩邸の上屋敷があったのだ。「桜田門外の変」に長州藩は直接かかわってはいないが、この距離の近さに当時の騒然とした様子が想像される。一方、下屋敷は今、話題の六本木ミッドタウンのすぐ隣にある「檜町公園（2）」であり、園内には長州名物「夏みかん」と「椿」が萩より植樹されている。ミッドタウンとは、なかなかセレブな屋敷を構えていた長州藩だが、それだけではない。支藩の「長府藩」の藩屋敷は現在の六本木ヒルズなのだ。隣接する公園はその名も「毛利公園（3）」。日露戦争で有名な「乃木希典」もこの藩邸で誕生したのだ。

長州藩は実に多くの幕末の志士を排出したわけだが、彼らの多くが通った道場が九段下の「練兵館（4）」である。江戸三大道場の一つで神道無念流の道場だ。ここには塾頭まで務めた桂小五郎をはじめ高杉晋作、井上馨、伊藤博文、品川弥二郎などが通ったという。この道場は現在の靖国神社内にあたり、社内には石碑が残っている。また靖国神社といえば「大村益次郎の銅像（5）」が有名だが、彼も長州出身の医者であり桂小五郎と投合して長州の軍をまかされるようになった。ちなみに大村が洋学を研究していた「蕃書調所（6）」もすぐ近所の九段下で、現在、石碑が残る。

ところで長州藩士で最も人気なのは何といっても「高杉晋作」であろう。伊藤博文が後に晋作のことを「動けば雷電の如く」と評しているが、実に雷電の如く藩内の農民を決起させ「奇兵隊」を率いたその姿は現在でも多くの人々を魅了している。そんな晋作は二十歳の頃、「昌平黌」で朱子学を学んでいる。「昌平黌」とは御茶ノ水にある「湯島聖堂（7）」の中にあった幕府の正式な学問所である。ここに通っていた当時晋作は、よく学則を破って観劇をしたり呑みに出ていたというエピソードが伝えられている。

晋作を筆頭に攘夷の先頭を走っていた長州藩の彼ら若者が起こした有名な事件に「イギリス公使館焼き討ち」がある。高杉晋作、伊藤博文、井上馨、久坂玄瑞、品川弥次郎らのメンバーで品川御殿山に建設中のイギリス公使館を爆弾で全焼させたのだ。若い頃とはいえ、後の初代総理大臣や外務大臣が参加しているのが凄い。彼らは焼き討ちの夜、品川宿の「土蔵相模（8）」に集結し、夜がふけるのを待った。この土蔵相模は「桜田門外の変」決行前夜にも浪士達が集結した場所である。戦火にも耐え昭和五二年まで現存（9）していたが、老朽化のため取り壊され、現在「品川歴史館（10）」に忠実に再現された模型が展示されている。また川島雄三監督の「幕末太陽傳」はこの土蔵相模が舞台となっている。主役ではないが石原裕次郎扮する晋作や伊藤なども登場し、当夜の雰囲気がリアルに再現されている。

しかし、幕末の長州は外国と幕府、両方に攻められ実に苦難の連続であった。そんな中で晋作は、大政奉還の僅か半年前に肺結核で命を落とした。

1【日比谷公園】公園内の法務省付近に長州藩上屋敷があった。　2【檜町公園】長州藩下屋敷があった場所。ミッドタウンの隣にある。　3【毛利公園】六本木ヒルズ横の公園が長府藩屋敷跡。　4【練兵館跡】晋作や桂らが通った神道無念流の道場跡。　5【大村益次郎像】靖国神社に建つ大村益次郎像。　6【蕃書調所跡】幕府が設けた洋学研究所跡。大村益次郎が教授方手伝いとして招かれた。　7【湯島聖堂】御茶ノ水にある幕府正式の学問所「昌平黌」がこの中にあった。　8【土蔵相模跡】現在はコンビニになっている。　9【土蔵相模古写真】昭和初期の頃の土蔵相模の古写真。　10【土蔵相模の模型】品川歴史館に展示されている精巧な模型。

幕末の英雄から政治家へ それぞれの行方を追う

長州藩は敵対していた薩摩藩と連合し、幕府に大政奉還させるに至った。そして遂に維新が成り、新政府が設立されたのだ。やがて服装も着物から洋服へと変わり、いよいよ舞台は〈英雄譚の幕末伝〉から〈近代史の政治の世界〉へと移った感がある。事実、現代の政治家にも長州出身者は多く、歴代総理大臣に八名もいる程だ。そしてその初代が伊藤博文。国会の前庭には立派な伊藤の銅像（11）が建っている。

伊藤は幕末期に四人の長州藩士とイギリスに秘密留学している。伊藤の他、井上馨、遠藤謹助、山尾庸三、井上勝のいわゆる「長州ファイブ」だ。彼らも維新後は東京で活躍し、その史跡も多く残る。品川区西大井には伊藤の墓（12）、西麻布の「長谷寺」には外務大臣や大蔵大臣などを歴任した井上馨の墓（13）がある。そして造幣局長などを務めた遠藤謹助の墓（14）は文京区湯島の「麟祥院」にある。また日本の鉄道発展に尽力した「日本の鉄道の父」井上勝の銅像（15）は東京駅というふさわしい場所に建っており、北品川にある墓（16）も、電車と新幹線の線路に囲まれた場所で、これまたふさわしい場所にある。

他にも薩長同盟に尽力した品川弥二郎は内務大臣などを歴任しており、靖国神社の前には銅像（17）が建っている。また晋作に代わって奇兵隊を指揮した山縣有朋も総理大臣に就任している。現在、美しい庭園が残る文京区の「椿山荘（18）」は山縣が私財で購入し名付けたものだ。すぐ隣の護国寺（19）には墓もあり、ここには同じく長州藩士の山田顕義や三条実美、大隈重信、田中光顕ら要人の墓もある。

とまぁ、ざっと挙げただけでもこのように長州藩出身者の活躍が目覚ましいが、現在、国会の中央広間の四隅にはは三体の銅像と、銅像のない台座のみが一つある。これは、ここに並ぶような政治家が誕生して欲しいという思いがあるという。果たして、この台座に立つの政治家は誕生するのであろうか？

11【伊藤博文像】国会前庭に建つ伊藤博文像。　12【伊藤博文墓】品川区西大井にある伊藤博文の墓。　13【井上馨墓】港区西麻布の「長谷寺」にある。　14【遠藤謹助墓】文京区湯島の遠藤謹助の墓。　15【井上勝像】東京駅に建つ井上勝像。　16【井上勝墓】北品川の東禅寺墓地にある。　17【品川弥二郎像】靖国神社のすぐ前にある像。隣には薩摩の大山巌銅像がある。　18【椿山荘】山縣有朋が購入し名付けた椿山荘。結婚式で有名である。　19【護国寺】山縣有朋をはじめ山田顕義や三条実美、田中光顕らの墓がある。

【国会中央広間に建つ銅像】
左から大隈重信、板垣退助、伊藤博文。

国会中央広間の四隅に並ぶ銅像。伊藤博文の隣が台座だけになっているのは将来の優秀な政治家誕生のために持ち越されたからとか。果たして、この台座に立つことのできる政治家は誕生するのであろうか。

みさわとしひろ　デザイン・イラスト制作を生業とするかたわら、見つけた銅像は三六〇度写真に収めるというコンセプトのもと、日々幕末スポットに繰り出してはコレクションを続ける。その幕末好きが高じて、ついにはオリジナルの幕末グッズを制作し販売もしている。
オリジナル幕末グッズサイト「伊呂波堂」　http://irohado.ocnk.net/